

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 26 年 5 月 1 日 (2014.5.1)

【公開番号】特開 2012-222490 (P2012-222490A)
 【公開日】平成 24 年 11 月 12 日 (2012.11.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-047
 【出願番号】特願 2011-84365 (P2011-84365)
 【国際特許分類】

H 0 4 B 1/44 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 B 1/44

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 3 月 18 日 (2014.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

前記ハイブリッド回路としてウィルキンソン型ハイブリッド合成分配回路が知られるが、用いられる抵抗は耐圧が求められるので、小型の抵抗器を利用することが出来ない問題がある。そこでハイブリッド回路としては、ブランチャイン型ハイブリッド合成分配器や 90 度ハイブリッドカップラを用いる場合が多い。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

この様な平衡型増幅器を用いた高周波回路として、特許文献 1 の図 6 に示したアンテナスイッチ回路が開示されている。このアンテナスイッチ回路は、入力ポートが送信器 125 と接続された平衡型増幅器 10 と、平衡型増幅器 10 の出力ポートに接続された SPDT スwitch 回路 127 と、SPDT スwitch 回路 127 と接続されたアンテナ ANT と、受信器 126 に接続された低雑音増幅器 128 を備えている。SPDT スwitch 回路 127 によって、一つのアンテナ ANT と送信器 125 との間、アンテナ ANT と受信器 126 との間を切り換える。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

送信出力電力を高め、かつアンテナダイバシティが可能な高周波回路を得るには、単純には特許文献 2 の高周波回路において、増幅器を特許文献 1 に記載された平衡型増幅器を用いることが考えられる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

なお、固定局と移動局が近くにあって大きな送信出力電力が必要でない場合には、一方の増幅器を非動作状態としても良い。この場合、第 1、第 2 ハイブリッド回路によって分配損失が発生するものの、増幅器による電力消費を抑えることができる。